



市民クラブ 高島の虹
藤田 昭 議員

令和5年度施政方針から
見えてくるものは

問

JR安曇川駅の周辺活性化事業について、市は動向を含めて関わりが必要ではないか

答

一定の関わりは必要であるとの認識はしていますが、民有地であるため、民間事業者による新たな展開に期待をしています

問 JR安曇川駅前の周辺活性化事業についてはどうか。

答 市長

平成30年に市が民間事業者と合同で計画を発表させていただき、その中で市の事業として、市道西万木川原上線の新設改良や駅西側の若者定住住宅地の整備について、その実現を図ってきたところです。市道は既に開通し、住宅地の分譲は、現時点で全体の9割にあたる36区画で販売が成立しています。

一方、旧平和堂跡地の利活用については、当該土地が

民有地であることから、市として整備計画をお示しできませんが、リゾートトラスト(株)から来年の秋にオープンが予定されている会員制リゾートホテルの整備に伴い必要となる社員寮の建設を当該跡地で行うとの計画をお聞きしているところです。5階建て120室の計画で来年夏頃の完成を目指されています。当該地には、既に金融機関が移転しており、今後社員寮が完成することで一帯に賑わいが創出され、残る土地についても民間事業者において

新たな計画が検討されることを期待するところです。



問

平和堂跡地は、市道末広3号線を挟んだ北側部分、旧の駐車場跡地を含め全体面積では約1万1千920²m²、ホテル社員寮用地としてリゾートトラスト(株)が平和堂(株)から購入された土地が2千294²m²、金融機関部分が658²m²であり、これらを除くと今回の開発部分は約24・8%となり、まだまだ跡地の大部分が現況のまま残ると考えられる。

民間所有地だからとの答弁であるが、平成30年3月市議会です市長は、旧の平和堂の店舗の解体後の跡地をどのようにするのかというのは安曇川駅周辺の大きな課題であったことから、「安曇川駅周辺の活性化を図ります。まちづくりに関わるもので市として一定関わりをしながら」と答弁されている。こうしたことも含め、民間所有地部分の今後についても市は動向を含めて、関わりが必要ではないか。